

第2回「新県民体育館を核としたまちづくり」ワークショップまとめ

災害発生時の状況を想定しながら新県民体育館が備える防災機能について、グループワークを行い、アイデアを発表

- 日時 令和8年5月16日(土) 14:00~17:00
- 場所 オープシア図書館 4階研修室
- 講師 高知大学自然科学系理工学部門 講師 坂本 淳氏
- 参加者 20名
(高校生8名、大学生(専門学生含む)4名、高知市職員3名、地域住民2名、商工関係者1名、観光関係者1名、交通関係者1名)

01 アイデアを模造紙へ貼り付けよう!

想定される状況	時間が経ってから			
	10分後	1時間後	1日後	1週間後
想定される状況 ※発生した状況を想定してください。	・ピッキングが止まる ・電気、水道が止まる	・身体が不自由な方の避難 ・地域住民の避難 ・津波の到達	・避難所運営の開始 ・生活場所の不足	・大切な人の安否確認 ・自宅に戻るが確認 ・避難経路の確認
新県民体育館に必要な機能や設備	・ソーラーパネル ・自家発電設備 ・貯水タンク ・放送設備	・バリアフリー機能 ・エレベーター	・運営マニュアル ・みんなが使える復興の種菜 ・プライバシーの確保 ・バーテーションの設置	・Wi-Fiスポットの確保 ・チャージスポットの設置 ・避難までのワンセンシング 等できる機能

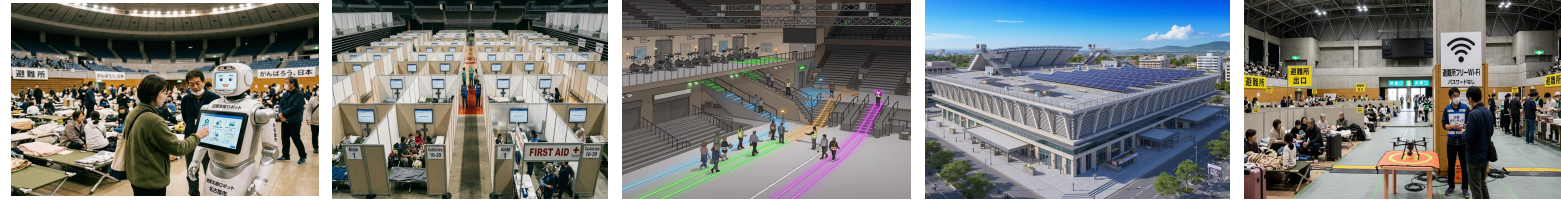


防災に関する講義

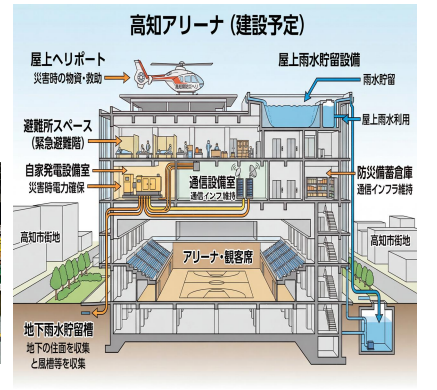
＜坂本講師より＞
自然災害によるリスクと対応について、災害の損失を軽減するために①災害誘因②暴露性③脆弱性を抑えることが鍵となる。
新県民体育館周辺は、津波や洪水（災害誘因）の被害対象となる人口や資産（暴露性）が高い地域である。そのため、新県民体育館が地域の新たな防災拠点として機能するよう防災対策について、考える必要がある。

02 生成AIを用いてアイデアを具体的な形（イメージ画像）にしてみよう!

01で考案したアイデアのうち特に良いと考えるものについて、生成AIを用いて具体的なイメージ画像を作成。多くの避難者が安全・スムーズに避難できる設備や、避難所運営における利便性、快適性、持続可能性などについて多くのアイデアが出た。災害時の非常用電源となる太陽光発電など自家発電を備えた設備や、雨水を利用した貯水設備など、本県の自然環境の特性を生かした設備を導入するアイデアも出た。



※画像は生成AIを利用したイメージ



03 グループごとに発表!

各グループで考案したアイデアをまとめた資料と生成したイメージ画像をもとに発表。「インターネットが利用できない状況」や「孤立して救助が来ない状況」など、各グループで特に重要と考える災害状況を具体的に想定し、課題や解決策について深く考察することができた。



まとめ・成果

- ワークショップを通じて、災害時に新県民体育館が地域の防災力を高める拠点となり、その役割・意義を果たすにはどのような機能・設備があるべきか、考察する機会となった。
- 多数の避難者に対する安全・スムーズな避難誘導、避難生活者への配慮、持続可能な避難所運営といった多様な視点からアイデアを得られた。
- 設定された具体的なシチュエーションを元にグループワークを行ったことで、参加者が災害発生時の状況をリアルに想像し、考察したことで災害への危機意識の高まりにもつながることができた。